

このひとをじっくり見ますか？

第3回

昭和初期に水彩画で活躍した画家【深谷市小前田】

山口敏男

やまぐちとしお
(明治35年～昭和16年)



山口敏男は、明治三十五(一九〇二)年花園村(現在の深谷市小前田)に生まれました。
埼玉県師範学校(現在の埼玉大学教育学部)を卒業後、白日会会員の久保喜一の指導を受けた敏男は、おらかな画風で盛んに水彩画の制作を続け、寄居小学校、男衾小学校、花園小学校で教壇に立ちながら、日本水彩画会展、白日会展に毎年出品しました。
戦時体制が敷かれていた当時は、美術全体が衰退をたどり、油絵の具の入手が困難な時期でした。そのため、県北地域では、水彩画を主体と



▲『雪景色がみえる室内』
画題として雪と山脈を好み、作品の対象としました。本作品は寄居町立男衾小学校の用務員室から描いた作品と言われています

した活動が寄居方面を中心に活発に行われました。そのグループの中心として活躍したのが敏男でした。敏男は雪と山脈と竹にひかれ、それらをテーマにした作品を数多く制作し、生涯で千枚を超える作品を描いたと伝えられています。

昭和八(一九三三)年、三十二歳の時に中西利雄に師事してからは、フットマン紙(純白の厚地の水彩画用紙)の荒目を愛用し、ますます闊達な画風をみせるようになります。その後、昭和十一(一九三六)年、日本水彩画会展で賞を受賞し



▲『赤松』
敏男は、よく信州や福島に足を運び、風景を描くことが多かったと言われています。『赤松』もその折に制作されたものと思われます

たことをきっかけに白日会会友に推挙され、活躍の場を広げていきました。また、交友関係は幅広く、活動を共にしていた児玉町(現在の本庄市)出身の画家で日展の審査員も務めた古川弘や小説家の武者小路実篤との交友もあったと伝えられています。
敏男は、精力的に作品の制作を続けていきましたが、昭和十六(一九四二)年四十歳の若さで没しています。現在、埼玉県立近代美術館に九点の水彩画が収蔵されています。

用語の手引き

『日本水彩画会』

日本で最も長い歴史をもつ絵画団体。大正2(1913)年、石井柏亭や石川欽一郎など、当時有力な水彩画家60余名が結集して、水彩画専門の絵画団体とした。

『白日会』

大正12(1923)年、中沢弘光と川島理一郎が、混迷にあえぐ当時の日本洋画壇の将来に心を痛め、正式な美術研究団体の発足を誓い、その時インド洋上で仰いだ白日に輝く太陽にちなみ、命名した。大正13(1924)年に正式に結成した。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

市長の深い話

深谷市長
小島 進



事業の見直しについて

今年度の予算では、いろいろな事業を見直し、歳出を削減しました。
事業の見直しについては、さまざまな考え方や意見があると思います。
行政は、無駄をなくして、必要なことを行うというのが当然の使命ですが、多種多様な分野の仕事をしていたり、それぞれの分野でこれを優先するかというのは大変難しい問題です。
従って、それぞれの分野にその時々ニーズに合わせて、限られた財源を適正に配分する必要があります。そして、その分野の中で

既存の事業の見直しを進めながら、より必要な事業を行っていくことが重要となります。
例えば、今年度行った敬老祝金の見直しもその中の一つです。これからの10年間で、75歳以上の高齢者率は11.3%から17.5%と急激な増加が予想され、それに伴い、要介護認定者や介護サービスは増加していくことが考えられます。
このような状況のもと、今までは、敬老祝金のように高齢者を慶祝する事業のニーズが高かったと考えられますが、これからは、今後増加していくであろう介護サービス、特に介護予防に重点をおいた施策の推進に転換していきます。
それにより、高齢者が安心して暮らしていけることができるような仕組みづくりを行っていきます。
このことは、単に予算を削減するためではなく、今までの事業を新たな行政ニーズに転換していくのに必要な見直しと考えています。
今後、多種多様な分野で新たな行政ニーズに対応するため、いろいろな事業の見直しにしっかり取り組んでいきますのでよろしくお願いたします。

ありがとうの手紙



最優秀賞
中学生の部
お父さんへ

深谷中学校1年(現2年) 小林優奈さん

今はもうそばにはいないけど、どこか遠くで私たちを見守ってくれてありがとう。たくさんとなりで笑い、たくさんしかられて私はとても幸せでした。勉強、友だちとの仲直りの仕方、思いやりの心、すべて教えてもらったのはお父さんでした。お父さんのおかげで、お母さんもお姉ちゃんもとても充実した日々を送っていました。まだ、たまにさみしくなってしまうこともあるけど、家族三人で助け合いながら生きていこうと思います。本当にありがとう。